

令和6年度地域活動支援事業審査会概要

日時：2024（令和6）年3月10日（日）

場所：ゆめぼりすセンター2階大会議室

午前9時30分開会

- ・ 藪中地域連携部長挨拶
- ・ 澤審査委員挨拶
- ・ 日程説明

午前9時45分提案発表

提案者

①里山をしる会

事業名：里地里山保全・活用事業「里リコ」

～Reconnecting to Satoyama 人と里地里山をもう一度つなげる活動～

②TEAM☆みんなのえがおづくり

事業名：玉滝の魅力を引き出し今と未来を繋ぐ事業

③伊賀市災害ボランティアセンター

事業名：外国人防災リーダー育成事業

午前11時10分

- ・ 審査結果発表
- ・ 澤審査委員講評

あらためまして皆様、本日のプレゼンテーション、おつかれさまでございました。

先ほど事務局の方から伝えていただきましたとおり、皆様の団体を市長に推薦をさせていただくことが決定いたしました。

本来、岩崎委員長の方がうまくまとめていただくところですが、僭越ながら私が講評をさせていただくこととなります。

お伝えしたいのは、あくまで、審査としての基準点をクリアするための数値化でありまして、皆様のことを順位付けするようなものでもないのかなと個人的には考えております。

市民活動というものは、基本的にはいろんな分野がございまして、その分野ごとに異なった事業を展開されるわけであって、それをひとくくりにして事業ができるかどうかを審査することは、なかなか難しいところと考えております。評価基準を超えるという数値化のためのものであるということだけ、ご理解いただければと思います。

その上で、市民活動を試してみえる皆様は、重々承知だと思っておりますが、基本的には市民活動はミッションを活動の原動力とされているかと思っております。

それをベースにしながら具体的な事業を展開されて、本日のようなプレゼンテーションの中でお聞きできたところ、あとは書面で審査したところも含めまして、基準点を皆さんが出されたということになるかと思っております。

1団体ずつ詳細まではなかなか我々もはかりかねる部分もございまして、わかる範囲で、我々の審査委員としましての希望も含めて、講評させていただきたいと思っております。

まず、里山をやる会さん、まずはおめでとうございます。

3年目ということでございまして、今後のことも含めてなんですが、これまでやっていただいた事業は、きっと参加者の多くが県外、市外の方が多かったように思われます。

やはり、地域課題というものに目を向けていただく上で、その地域のニーズというのも含めて、あらためて見直すべきタイミングにもなるのかなと思っておりますので、今後継続をされる上で、あくまで市民に対して、この地域へのアプローチをどういうふう展開されていくのかというのは少し気になるところがございまして。

その点を少し強化していただきながら、長く事業を継続していったら、例えばおっしゃって見えた「マツタケの」っていうようなところにまでアプローチできる

ように、事業を継続していただけることを望んでおります。よろしくお願いいたします。

TEAM ☆みんなのえがおづくりさん。

今年度初めての申請ということで、これは私の所感も含めてになりますが、包み隠さず申し上げますと、書面での審査の上では、正直申し上げますと、どういったものになるのかっていうのがあまりわからなかったっていうのがございました。

ただ、今日プレゼンテーションでお聞きできて、内容の詳細が聞けましたりとか、まちづくり協議会さんとの接点であったりとか、関係性、そういったものがしっかりと基盤があるものだということがよく理解できました。

その上で、自立性といいますか、そういったところに少し若干疑問が残る部分もございますし、どうしてもその子供会の復活というようなことが目的としてありましたので、私のことを言いますと、私も地元の子供会が大事です。

子育て世代のアプローチというのがやはり重要になってくるかと思うのですが、けれども、同時に、子育て世代が子育てを終えた後、どういうふうに事業を継続していくのかというのが大きな課題になるかと思えます。

プレゼンテーションの中で、雇用の創出みたいな部分も少し触れられたと思うのですが、そういったことを考えますと、やはり事業が継続すべきものだと思うので、その点を含み入れていただいて、雇用が生まれるまで継続をしていただけると我々としてはうれしく思います。よろしくお願いいたします。

そして最後、今回一番評価点が高かった、伊賀市災害ボランティアセンターさん。

やはりですね、3年目を迎えて着実にステップアップされているなというふうに、私は感じております。

それこそ外国人の方のプライバシーのこともありますので、そういったことも含めて、あらためて海外の方、外国人の方の支援に着手されているというのは非常にモデルケースとしても素晴らしいことだと感じております。

それも含めまして、あと、継続をされることは、きっと期待ができるとは感じては思うのですけれども、持続可能性の部分で、5,000 人を超える外国人の中の、まだやはり 50 人程度になろうかと思imasるので、本来の団体の役割は外国人ボランティアの育成ではないかもしれませんが、そこに含み入れた上で、事業の継続を今後も、発展的にとらえていただければと思います。

拙い講評になるかと思imasけれども、私の方からは以上となります。

各団体の皆様、我々審査員一同は事業を継続していただけることを応援しております。どうぞ頑張って継続して事業を完成させていただきたいと思っております。

どうもありがとうございました。